

新発田市立御免町幼稚園 読書活動の概要

当園の子供たちや保護者は絵本や図鑑が大好きである。これは、子供たちが主体的に取り組む教育活動の中心に読書活動を位置づけていることが効果として表れていると思われる。

子供たちは、園や家庭での読み聞かせを通して、想像する楽しさと出会ったり、皆で同じ世界を共有しながら心を通わせ一体感を味わったりしている。また、興味・関心に応じた園での様々な遊びや活動の中で物語の世界に浸りながら主体的に取り組んでいる。

【日常的な環境づくりで絵本の世界に入り込む子供たちを育てる】

1 園児用図書文庫の活用

昭和42年に園文庫を開設。絵本が大好きな子供になってほしいと願って毎日の読み聞かせを行い、たくさんの絵本と出合わせ、子供たちの豊かな感性や表現力、創造力を育むよう努めている。

絵本の貸し出しは、毎週金曜日に行っている。園文庫から自分で選んで、絵本ファイルと一緒に持ち帰り、保護者に読み聞かせをしてもらい親子で絵本の世界や触れ合いを楽しんでもらっている。



～帰りの会での読み聞かせ～

夢中になって担任の話に耳を傾け知っていることを伝えようとする姿。



～思考錯誤して製作～

魚の図鑑を見ながら図鑑に載っているものを再現するために、粘土で作成しようと熱心に取り組む子。



～保育室で過ごす中で興味関心を深める～

友達や先生と一緒に、「なぜ、どうして、分かった、なるほど、もっと知りたい」などの思いをもって図鑑をじっくり見ている子供たち。

～先生との心の交流～

先生の膝に乗って、好きな時間に自由に絵本を取って過ごす様子。



～韻を踏んだ言い回しが面白い～

先生に繰り返して読んでもらって大笑いする子。

園行事で職員による劇や絵本、パネルシアターを通して物語に浸る

皆で同じ世界を共有する楽しさを味わい、絵本の世界に浸り
ごっこ遊びをしたり登場人物になりきったりして楽しむ経験を
重ねている。



～物語の世界をみんなで共有 する姿～

誕生会で職員の演じる「大
きなかぶ」に参加して一緒に
楽しんだ後、自分たちでも
「やってみたい」と言い好き
な役になって演じて楽しむ。

絵本の世界を存分に味わい登場人物になってごっこ遊びをする姿 と 運動会でヒーローになって表現遊びを披露する姿～



2 絵本から広がるごっこ遊びや劇遊び

学級文庫の絵本コーナーは毎月、子供たちの発達や興味・関心、
季節に応じて提示する絵本の選定をし、絵本の入れ替えを行い、いろ
いろな絵本に出会う機会にしている。大好きな絵本を繰り返し見たり、
読み聞かせをしたりする中で、語彙力や表現力を育んでいる。





～保育室の絵本コーナーで様々な絵本と出会う～

月初め絵本が入れ替えられ、どんな絵本があるか興味津々の子供たち。



～月間絵本から広がるお店屋さんごっこ～

自分の体験と重ね、お寿司屋さんごっこを開始。保護者を招待して楽しむ。



～飼育物や自然物の観察～

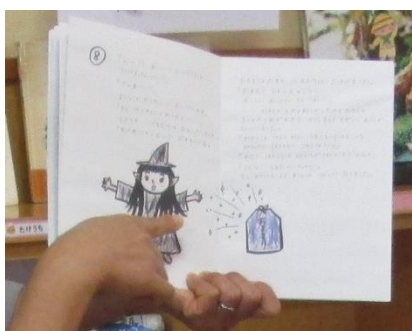
保育室のコーナーにあるものにより興味をもって自ら調べられるように絵本を置く。



～絵本「わんぱくだんの宝島」からイメージを広げて～

砂場で遊ぶ子供たちが、役割分担（水を汲む、スコップで土を掘って海を深くする、土と水をかけながら島を固める）をしながら10日程かけて、ついに丈夫な宝島が完成～!! 子供5人と先生が乗ることができ、自分たちの目標が達成された。友達と一生懸命に力を合わせて完成したので大満足できた。年間を通して同シリーズの絵本に親しみ、大好きな絵本になり子供たちの心に残る絵本となる。

「一人一人の自己肯定感」や「良好な人間関係」の中で 主体的に物語作りに取り組み、自分のよさを発揮し、友達と協同して発表した子供たち



～園でのたくさんの読み聞かせの経験から自分たちで考えた物語を絵本にしたり、発表会で演じたり～

友達の話にわくわくやドキドキを感じながら劇を作り上げ、あやめ会議（話し合い）を重ねて、イメージを共有し想像の世界に思いを巡らせた。完全オリジナル版を発表し、クラスで一体感を感じながらやり遂げた達成感を味わった。



～お菓子の家パーティー大成功(興味関心を実現させる活動)～

ウエハースや様々なチョコレートのお菓子で、家を作っている月間絵本がクラスで取り合いになるほどお気に入りです、「こんなの作ってみたい～!!」という子供たちの声からお菓子パーティーをした。絵本に載っているお菓子を用意し、チョコペンでお菓子をくっつけ、家や椅子、ベット、車など思い思いに作った。

【保護者や地域と連携した環境作りで絵本に親しむ子供を育む】

親子文庫年間活動表

月	活動内容
5月	・貸し出しファイル作成 ・貸し出し便り発行 ・掲示板装飾 ・絵本の整理、清掃 ・玄関の季節本の紹介
6月	・新刊の注文と貸し出し、紹介
7月	・夏休みの貸し出し案内便り発行
10月	・先生たちに「せんせいの〇〇な本」の記入依頼と掲示 ・掲示板装飾
12月	・掲示板装飾 ・絵本の整理、清掃 ・冬休みの貸し出し案内便りの発行
2月	・新役員への引継ぎ
3月	・今年度の「貸し出し終了の案内」発行 ・絵本の整理、清掃

1 親子文庫の活用と保護者による絵本の読み聞かせ

親子文庫は「心豊かな子供に育ててほしい」「親子の絆を深めたい」という願いから始まった。より多くのよい絵本と出会い、お家の方から読んでもらう時間を大切にするこ
とで、親子一緒にたくさんのことを感じ、「大好きな本」が一冊でも多く増えることを願い設置された。



～掲示板の活用～

先生たちのいろいろなジャンルの本の紹介や季節毎の装飾があることで、職員や保護者同士で会話し、交流を深めることにつながった。





～みんなのおすすめ絵本～

利用者がお薦めの本を置き、その本が気になった別の利用者が本を借りる代わりに今度は自分がそこに本を置いていく。



～夏休みに読んだ本～

1回の利用で7冊まで貸し出しを行っている。毎日、利用者がたくさんおり、読んでもらった本を夏休みカードに記入してもらった。いつもより家族で過ごす時間が長い夏休みに親子での絵本タイムを楽しむことができた。



～保護者ボランティアによる絵本の読み聞かせ～

保護者に「この絵本は、私が幼稚園のとき、お母さんに読んでもらったもののな」と言って読んでいただいた。落ち着いた雰囲気の中で、先生も子供たちと一緒に聞いてお話の世界に浸って楽しんでいる。毎回、好評で、園にない絵本に出会ったり、長いお話に引き込まれたりしている。

2 地域における施設訪問

年1回年長組が園外保育で新発田市出身の挿絵画家落谷虹児記念館の訪問を行い、様々な作品に触れる中で創造力や情操を育み、新たな世界に興味を抱き、関心を広げる豊かな機会を作っている。



～落谷虹児記念館にある本と同じものを園で読み聞かせ～

絵本の挿絵の美しさに触れながら、主人公の悲しみや痛み、思いを感じ、自分の未知の世界に出会えるようにしている。



上記の事例は、園と家庭と共に取り組んでいることの一部である。子供が主体的に自分の思いや願いに基づいて絵本に関われる環境を提供することが、子供の主体性のある学びの基礎となっている。